トリコロール　2008. 12 月号　発行：特定非営利活動法人かながわクラブ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町 1817　TEL045（370）3390/FAX045（381）8884
http://www.kanagawaclub.com

Tricolor

大会・公式戦結果

Youth

【県クラブユースリーグ】

vs 相模原 FC	4-0○
vsOSA	0-0△

【県 U-17 リーグ】

vs 逗子開成	0-3●
vs 城郷	0-1●

Junior Youth

【県 CJY(U-15)リーグ】

vsFC ヴォセラーゴ津久井	2-1○
vs 港北 FC	1-3●

【2008/2009 県 U-15 リーグ】

vsFC コラソン B	1-9●
vs サレジオ学院中	2-4●
vs 横浜創英中	1-2●

小 6

【国際チビッ子】

vs 鶴ヶ峰 SC	0-2●
vsNPO Y.S.C.C.	3-2○

※7 チーム中第 3 位

小 5

【草柳カップ】

▼グループリーグ

vsFC 相模野	0-1●
vs 北大和 FC	0-3●

▼順位決定戦

vs 横浜かもめ SC	5-2○

※6 チーム中第 5 位

Papas

☆マスターズリーグ

【県マスターズリーグ】

vs 横浜	0-6●

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀 4 部】

vs 平塚	1-2●
vs 足柄上	0-5●

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀 2 部】

vs 横須賀	0-4●

今、グラウンドでは・・・

Top

【Happy Football Day2008】

今年も港北小学校に行きます！

12 月 14 日(日)に「Happy Football Day2008～みんなありがとう！そして、来年もよろしく！～」と題したイベントを開催させていただくことになりました。日頃からの感謝を込めて Top チーム選手たちみんなで企画しました。不慣れな部分もあるとは思いますが、みんなとともに楽しい時間を過ごしたいと思っていますので、ぜひぜひご参加ください！Top チームのことをあまり知らないという皆さんもこれを機に知っていただき、今後応援していただけたらとってもうれしいです！

なお Top チーム近況として、横浜市民大会ベスト 4 まで勝ちあがっています。12/7(日)の準決勝に勝っていれば、1/11(日)にニッパツ三ツ沢球技場で予定されている決勝戦に 2 年ぶり 2 回目の優勝をかけ臨むことになります。決勝に進出した際には、みなさんの熱い応援をお願いします！(眞弓　一弥)

【選手紹介⑤】

Top チーム選手紹介第 5 回目は中盤で攻撃の鍵を握る背番号 25 堀口選手です。昨年靭帯損傷の大怪我から復帰し、忙しい中練習にもほとんど参加しプレーに幅ができ、チームの中で今年一番成長した選手といえるでしょう。小柄な堀口選手ですが、中盤なら左右両サイドこなすことができ、サイドの突破からのクロス、チャンスと見ればゴール前に顔を出し、ミドルレンジからの強烈なシュートが持ち味です。俊敏な動きで相手を翻弄（ほんろう）し、チャンスを作り攻撃の要になる、小柄な選手のお手本となるでしょう。今後の堀口選手の活躍にご期待ください。(中本　洋一)

堀口選手からのコメント

いつも応援ありがとうございます。去年は怪我のために一年間試合にでることができませんでしたが、今年は怪我も治り、試合にも度々ださせてもらいました。この調子で来年も試合にでられるように日々精進して頑張りたいと思います。来年はクロスの精度と決定力を今以上に上げてチームの勝利に貢献できたらと思います。チームが勝つためにもみなさまの応援が必要不可欠ですのでこれからも応援よろしくお願いします。

Youth

ようやく勝つことができました。

県クラブユースリーグの相模原 FC 戦。結果は 4-0 でしたが、落ち着いてボールを扱えない時間帯に失点しないで済んだことや、相手のミスに助けられた部分もありましたが、結果には素直に喜ぼうとも思いますし、これで選手たちに自信が出てきたことは確かです。続いた OSA 戦。相手が決定機を逃してくれたこともありましたが、選手は自信を持って試合に臨んでいたようで、最後まで集中を切らすことなく戦えました。その後 3 年生が抜けた U-17 リーグを 2 試合行いました。 抜けたのは 3 人ですが、精神的に安心感を与えていた選手たちが抜けた部分を埋めきれず、劣勢になると挽回できません。こちらはチームの成長までもう少し時間をかけようと思います。（内田 佳彦）

Junior Youth

先日、ジュニアユースの選手たちに「関東社会人サッカー大会」の運営を手伝ってもらう機会がありました。

県サッカー協会の役員の方たちとともに朝から夕方まで、会場設営から始まり、試合中のボールボーイ、終了後の撤収作業までを行ってくれました。多くの大人に混ざって、しっかりと行動していた姿には感心しました。

さて、その中で選手たちは何か感じたことがあったでしょうか?もちろん、試合(プレー)を観て学んだことはあるでしょう。しかし、それ以外に運営する立場になったことで初めて気づいたことや実感したことがなかったでしょうか?このことをジュニアユースの選手たちに問いかけたいと思います。どんな感想が出てくるでしょうか?いずれにしろサッカー選手として大切にして欲しい感覚なので、今度みんなで話し合いたいと思います。（二木 昭）

小 6

【県大会】

残念ながら、国際チビッ子では予選リーグ敗退となってしまいましたが、保護者の方々には積極的な声援を頂きありがとうございました。今後は受験を控え、休部や欠席が増える可能性はありますが、残っているメンバーはこれをチャンスだと思い、個人としてもチームとしてもステップアップできるよう頑張って欲しいものです。県大会ももうすぐそこまで迫っていますので、JY 等の練習に積極的に参加してスピードやパワー等、高いレベルでなれ、公式戦に活かして欲しいと思います。今のところ JY に上がることを考えていない方も積極的に参加していただいて構いません。

【草柳招待】

頻繁に練習試合をさせて頂いている草柳 SC より 12/20～21 に草柳招待大会に招待されました。横浜市からは、かもめ SC、Y.S.C.C.とこちらも何度も対戦したことのあるチームが招待されており、自分たちの日頃の成果を試すのにはいい大会かと思います。シュートへの意識、突破への意識、ファーストタッチへの意識、ボールポゼッションへの意識、顔を出すタイミングの意識を再確認して、臨んで欲しいと思います。しかし、まだ、結果は出ないかもしれません。ただ、結果が出ないことへのイライラや、アバウトなプレーが出ないよう、注意してコーチングしていきたいと思います。結果が欲しさ故のむちゃ蹴り（意図のない、ただなんとなく陣地挽回のための逃げのキック）等も同様です。（益子 伸孝）

小 5

三番目の要素として、「特徴ある選手」＝「個性ある選手」が上げられます。

個性とは何なのでしょうか？

「足が速い」・「背が高い」・「判断が速い」・「キックの精度が高い」・「ヘディングが強い」・「対人に強い」・「視野が広い」・「ドリブルが上手い」等、いろいろあると思います。私が一番必要と考える「個性」は、「真面目」です。

「真面目」。これは生まれ持った資質であり、トレーニングでは改善できない「個性」だと思います。確かに足が速かったり、ドリブルが上手であれば良いのですが、それだけでは選手として生き残っていけないと私は考えます。「真面目で足が速い」、「真面目でドリブルが上手い」等々。

逆に言えば、「真面目な選手が最後まで生き残れる」なのです。

世の中にはJリーガーよりもサッカーが上手い選手は沢山います。そんな選手が何故、プロになれないのか？色々な要因があるかもしれませんが、「真面目」の欠如が一番の要因と私は思います。

来年 4 月に横浜 TC の再セレクションが予定されています。もし私が来年も皆さんの担当をするようであれば、「メンタル」「技術」「個性」そして「真面目」を兼ね備えた選手を推薦したいと思います。仮に推薦されなくても、セレクションに落ちても、「良い選手じゃないんだ」なんて思わないでください。小学生年代のサッカーレベルはあまり当てになりません。絶対どこかの年代で変わるときが来ます。その時がくるまで、「真面目」に「メンタル・技術・個性」を磨く努力をしてください。(完) (高田 成典)

小 4

【最近の試合で感じたこと】

☆11/22 練習試合

＜A チーム＞

①×EMSC2-2△

②×草柳 SC2-2△

＜B チーム＞

①×草柳 SC2-3●

②×EMSC0-3●

国チビの時から気になっていましたが、やはり単純に縦にボールを入れられてから失点するシーンが目立ちます。ボールを失った瞬間の一歩目で、もっと速く、もっと厳しくボール保持者に寄せる必要があります。次回のつるま SC とのゲームでは、まずはその部分を意識してもらいたいと思います。

☆11/24 練習試合×つるま SC

＜A チーム＞

0-0△/0-1●/0-0△/2-0○/2-2△

＜B チーム＞

0-0△/0-4●/1-2●/1-4●/0-9●

この日のテーマは『縦にボールを入れさせない』でした。相手はボールへの寄せも速く足元の技術もある良いチームです。A チームは、相手の寄せの速さに慣れるまではミスでボールを失うプレーが目立ちましたが、それにも徐々に対応できるようになると、チェンジサイドを入れてからワンツーで裏に抜けたり、前の選手を追い越し 2vs1 の局面を作ってクロスやシュートを狙うなどアグレッシブなプレーが出始め、試合を重ねるにつれて内容がよくなっていきました。結果的に 5 試合で 3 失点と、今日のテーマについても及第点が与えられます。攻撃についてはあと 3 点は取れたと思いますが、フリーでシュートを打てる場面で枠をはずすなど、自ら無得点試合を作ってしまった感があります。決定力については、最近のトレーニングで行なっているシューティングゲームにおいて「身体の向き・ファーストタッチ・フィニッシュ」をひたすら繰り返すことで、精度を上げていきたいと思います。

B チームは、A と比べると考えながらサッカーをするという部分で決定的な差があります。攻守

両面で、人とスペースを意識することができないため、結果としてすべてのプレーがワンテンポ・ツーテンポ遅れてしまい、チャンスを生かせずまたピンチを容易に招いてしまいます。人とスペースが意識できるようになるには、やはり技術の向上に尽きるのだと思います。ボール扱いに自信をもつことができれば顔も上がるようになり、今何が起き、その次に何が起きようとしているのか予測もできるようになるはずです。まずは、足元の技術を高めること、これがすべての出発点になるのではないでしょうか。

☆11/30 総合型クラブ交流会

＜ブルー(A)＞

×若葉台グリーン 8-0○

×大沢 FC0-0△

×SELF-B0-1●

×久本 SC-B3-1○

×W.O.F3-1○

＜ブラン(B)＞

×SELF-B0-7●

×久本 SC-B0-4●

×W.O.F0-8●

×久本 SC-A1-6●

×若葉台ホワイト 0-8●

ブルーに関しては、第 5 位という結果はともかくとして、目指している「見てもやっても楽しいサッカー」ができていたと思います。が、ここ一番の勝負弱さは相変わらずです。決めるべきところで決めないと良い成績は残せません。ただ、技術と判断の伴ったプレーという点では、今回集まったチームの中でも上位の方にあったと思います。勝ちたいのはコーチでもお父さんお母さんでもありません。精神論になってしまうかもしれませんが、内容と結果を結びつけるのは子供たち自身がどれだけ勝ちたいという気持ちを持って試合に臨んでいるかにかかっています。内なる部分で何かが変わってくれることを辛抱強く待ちたいと思います。

ブランは、自信のなさ・元気のなさがそのまま結果につながってしまった感があります。技術に関しては短期間での向上は望めませんが、頑張る・闘う・最後まであきらめない、といった部分はちょっとしたきっかけで変えることができるはずです。出場した選手たちは、今日の 5 試合を単なる通過点にしてはいけません。また、結果から目をそらしてもいけません。その上で・・・、まずは原点に戻ってサッカーを楽しもうよ！

（鈴木　章弘）

小　3

【SO-BUS-CUP に向けて】

先日行われた、「区リーグ」を日本代表で言うテストマッチ、「SO−BUS−CUP」をアジア予選、と想定してやろうと、区リーグの試合前に子供たちと話をしました。しかも今回は、カップ戦前の最後の試合で選手にとっては試合に多くでるために、アピールする最後のチャンスでさらに今回、初めてポジションを決めて試合に臨んでみました(区リーグは 8 人制なのでキーパーを含む 5 人の選手はポジションを固定し 3 人はポジションをフリー)。今までは、全員がボールに意識が集中してしまいお団子サッカーになりがちでしたが、ポジションを決めることのよって一人一人の役割が明確になり広くグランドを使ったサッカーを展開することができました。選手たちもがんばり結果も 3 戦 3 勝と良い結果を出すことができました。後は、大会で仲間を信じて自分たちの 1 試合 1 試合持てる力を出し切ればかながわクラブの特徴でもある「ボールを大切にする美しいサッカー」で良い結果がついてくると、私は信じています。

【お願い】

これからの季節、活動中気温が下がることが多いので防寒具(ベンチコート・ジャージ・手袋等)を必ずお持ち下さい。よろしくお願いいたします。（丸山　祐人）

小　2

【食育】

最近この言葉をよく耳にするようになりました。学校からの案内や各種文献、ネットなどから情報を得られ既に実践されている保護者の皆さまも多いかと思いますが、健康な体を作り元気にサッカーを楽しむためにも重要かと思いますので少しポイントなどご紹介したいと思います。

①朝食の大切さ

“一日のウォーミングアップのために重要”

「体内時計がリセットされ、脳の唯一の栄養素であるブドウ糖が集中力・学習能力を高め、肥満を予防、体力が向上し、常に安定した気持ちで過ごせる」

・我々スタッフが練習や試合の案内の際に繰り返し言い続けているの、持ち物だけではなく「心も体も準備が必要」であることをわかって欲しいからなのです。

②おやつの役割

“子供の大好きな時間の一つ”

「3 回の食事で摂りきれないエネルギーや栄養素を補うために必要で、食を楽しみ、興味や関心を広げる絶好の機会になる。 但し、摂り過ぎて食事に影響しては×」

・おやつは一日の食事量の 10%くらいが良いそうです。「適量」は重要ですね。（昨夜の飲みすぎを自戒. . . ）

③偏食(好き嫌い)の対処法

“「嫌い」は成長し社会性を身につける過程の一つ”

「少しでも食べたら褒める、親自身の偏食と子供の甘やかしを改める、食事前に空腹になるようおやつの時間を考える、少しずつ時間をかけ嫌いな食品になれさせる、調理方法を工夫する」

・ここでも「出来たら褒める」が大事なようです。励ましながら克服できるとよいですよね。

④食欲不振・小食の対処法

「1 回の食事量に拘らず食事時間も 20 分程度を限度として残りは片付ける、献立・調理方法を工夫、おやつは量を決め与えすぎない、食事の強制はしない、少なめに盛りつけ気持ちよく食べられるようにする」

・保護者の皆さまのサポートは「応援」と一緒で非常に大事になります。

関連の資料などのご案内も可能ですし、保護者の皆様からのご希望があれば講習会の開催も検討できるかと思います。是非ご興味を持っていただき、クラブに対しても要望などあればお知らせください。（小野　津春）

幼児・小 1

【サッカーは自由だから楽しい！】

サッカーにおけるスピードには、プレーそのもののスピードとして走るスピード、ドリブルのスピード、シュートのスピードなどがあります。プレーそのもののスピードは筋力の発達と共に自然と身についてきます。しかし、サッカーで最も大切な「考える（判断する）スピード」は幼い頃からの習慣づけがない限りなかなか身につくものではありません。

言うまでもなくサッカーのフィールドは4本の直線で囲まれたスペースが示されてあるだけで、相手ゴールと味方のゴールとの違いこそあれ、他に何の制約もありません。更に、選手がその中をどのように動くかについても全く自由です。一旦試合が始まってしまうとハーフタイムまでは休憩がありません。ですから、監督・コーチからの指示も不可能に近いので、選手は自分の考えでプレーせざるを得なくなります。

つまり「自分の頭で考え、判断し、決断し、プ

レーを行う」ことが選手には要求されるのです。誰かからの指示を待ってプレーをしたり、なんとなく行き当たりばったりのプレーをしたりすることでは、およそサッカーの楽しさは味わえないように思います。サッカーはフィールド上に 100%の自由が保障されているからこそ楽しいのであって、誰かから言われた通りに、あるいは意図のないプレーに終始するだけでは、犬が飼い主の投げたボールを追いかけ、それを銜えて戻ってくるようなもので、楽しさは半減してしまうのです。自分の好きなように、自由にプレーできることがサッカーの楽しさの原点ではないでしょうか。

【考える習慣】

考える（判断する）スピードを身につけさせるために、かながわクラブでは低学年の頃から、考える習慣を身につけさせる指導を心がけています。具体的には、どんな些細なプレー一つであっても、自分の脳みそからの指令で手足の筋肉を動かした結果なのだということを理解させます。自分の頭で考えたことが動きに（プレーに）反映されます。逆に脳が指令を出さなければ、体は動きようがないからです。

そして、列の作り方、ゲームのときのキーパーの決め方、順番の決め方、グループの作り方などは極力子どもたちだけで決めさせます。多少時間はかかりますが、長い目で見れば、この時期に費やした 1、2 分の無駄（？）は子どもたち一人一人が考えるようになることに比べればたいした問題ではありません。

また、一つ一つの練習メニューにも意図があります。少し難しいかもしれませんが、その意図を子どもたちに説明をして、理解してもらい、練習に取り組ませます。新しい練習メニューが、最初のうち、うまくできないのは正確な指令が脳から出されていないためです。サッカーが上達するためには、練習の意図を理解し、正確な指令が脳から出るようにしなければなりません。

【判断する習慣】

ゲーム中のプレーに関しても、「なぜ？どのような意図があって？」ということを絶えず子どもたちに問いかけます。短絡的にプレーの良し悪しを評価することはしません。結果が悪くても意図のあるプレーは褒めます。逆に結果が良くても意図のないプレーには、結果だけを評価するにとどまります。

そして、いかなる場合でも、指導者の考えを押しつけることはせずに、いくつかの他のプレーの選択肢を示唆することを心がけています。指導者が「子どもたちが自分の頭で考えて、判断し、決断したプレー」を尊重する姿勢を持たなければ、たちまち子どもたちは考えてプレーすることを止めてしまうでしょう。勝ち負けという結果だけを重視して、プレーの一つ一つの拠りどころとなる考える過程を軽視することが子どもたちの考える意欲を瞬時に萎えさせてしまうのです。

良いプレーでも悪いプレーでも、子どもたちの意図を確認し、それを認めたうえで、「こんな考え方もあるよ」とか「こんなプレーはどうだろうか？」などと視点を変えさせるアドバイスができれば、「次も考えてプレーをしてみよう」という子どもたちの意欲をかきたてることにつながるのです。こうして考えの幅を広げさせ、いくつか考えられる選択肢の中から最良のプレーを選択することができるように仕向けるのが指導者の手腕と言えるでしょう。

【防寒対策を！】

活動時の気温がだいぶ低くなり、寒さで縮こまっている子どもたちも見られるようになりました。活動時に、ユニフォーム（半そで）の下に長袖のシャツを1枚着させたり、手袋をさせたりすることをお願いします。（佐藤 敏明）

Papas

【来年度 Papas の体制について】

2000 年 6 月にかながわクラブの父親達の壮年カテゴリーとして産声を上げた Papas も 9 年目を迎えます。当初は 30 代中心に 25～26 人であった Papas も、今では 60 人近くとなり、しかも 40 歳以上の方が 44、5 人、なおかつそのほとんどの方がシニアリーグに加盟し、公式戦を年間 20～30 試合を楽しんでいます。逆に 40 歳未満の方は十数名と 1 チームを組むのも難しくなりつつあります。ユニフォームを作って試合の相手を探して回った設立当初のころとは隔世の感があります。

Papas の体制、今後の在り方などについては、メンバーの皆さんからの様々な声がスタッフのところにも届いております。そうした声を踏まえつつ来年度の体制についてスタッフで検討して参りましたが、今後の各チームへの応募状況にもよりますが、基本的には本年同様の体制で臨みたいと考えております。今後ともこうした現状や年齢構成などを見ながら、Papas の在りようをメンバーみんなで探っていきたいと考えております。そうした意味からも来年度のシニアリーグへの参加申し込みや Papas 総会・納会は大事な意見交換の場ですのでふるってご参加ください。

【来年度シニアリーグ等参加者募集】

来年度のシニアリーグ等参加チームのメンバーを募集します。本年度から継続される方も改めて参加の意思表示をお願いします。

応募資格は平成 21 年 4 月 1 日現在満 40 歳以上の男性です。年度中に 40 歳になる方も参加できますが、試合に出場できるのは 40 歳の誕生日を迎えてからになります。またリーグ戦は 11 月に終了し、後は市シニアマスターズトーナメントの数試合を残すのみとなりますので、この点にご留意願います。

募集チームは、Rec、Comp、Masters の三つです。Rec は、県シニアリーグ四十雀 4 部に所属しリクリエーショナルなサッカーを目指しており、Papas で初めてサッカーを始めた方や 50 代後半のメンバーもいます。年間 13 試合のリーグ戦に参戦します。Comp はどちらかといえば競技志向のチームで、今年は四十雀 2 部から 3 部に降格してしまいましたが、新年度は再び 2 部を目指しています。年間 12 試合のリーグ戦とトーナメント戦に参戦します。Rec と Comp はどちらかしか入れません。Rec と Comp のメンバーは、Rec、Comp の合同チーム＜O-40＞を編成して、横浜市サッカー協会シニア委員会主催試合（交歓試合とマスターズ大会合わせて年間 10 試合程度）に参加します。この市シニアの費用も含めて、参加費用は昨年同様年間 7,500 円と見込んでいます。

Masters は、県サッカー協会シニア委員会が主催するマスターズリーグに参加するチームです。このリーグは四十雀 1 部、2 部のチームがほとんどと大変レベルの高いリーグです。試合は主に土曜日に平塚市馬入の人工芝か天然芝で行われ、審判も県協会から派遣された審判が笛を吹きます。Rec、Comp に参加している人でも参加していない人でも応募することができますが、日本協会への選手登録が必要となります。したがって費用も Rec、Comp 参加費用とは別に必要で、新年度も 7,500 円と見込んでいます。

この参加費用は、現時点の見込みですので、参加人数の多少や県協会の値上げなどにより、若干、今年より値上げすることになるかもしれません。

これらのチームについてのご質問などがあれば遠慮なくクラブ事務局か Papas 担当スタッフにお尋ねください。12 月中旬に応募を締め切って、

新年度の体制を整えたいと考えています。費用徴収の時期も早めさせていただこうと思います。

（茅野 英一）

Mistral

【最近の練習風景】

夏過ぎ頃からでしょうか、もともと少ない参加人数に加え、怪我人やらご高齢（笑）やらでさらに人数が減っています。先日は参加者３名だったので、ボール回しをやった後、ペタンク大会に変更しました。チームミストラル（よしみ、まり、ハロハロ）対チームコーチ（内田コーチ、浜野コーチ）。途中ミラクル浜野の活躍もむなしく、激戦の末 2 勝 1 敗でチームミストラルの勝ち！！勝ったチームミストラルにはお汁粉とコーンスープのご褒美がありました。久しぶりに清々しいひと時を過ごしました。って！

これでいいのかミストラル！？

ペタンクは確かに楽しいのですが、度々これではどうも心も体もすっきりしません。やっぱりサッカーをやりたいです。人数が少ないとフットサルも出来ないですし。そろそろ本気で考えないといけません。女性の方ならどなたでも参加できます。サッカーなんか出来なくても、知らなくても大丈夫です。なにせペタンクやらサッカーテニスをやっているくらいですから。優しい（？）コーチもいますから、手取り足取り教えてもらえます。運動不足が気になるお母さん！是非是非ミストラルに愛の手（足？）を！！（小林 美奈）

ヨーガ

無事に帰りました

お蔭様で、インド（コルカタ）でのヨーガ研修の後、無事に帰国しました。

先週からのニュースで伝えられる内容に唖然としています。テロの起きたムンバイへは今年の 1 月に行きました。その時に、先週火事になっていたタージマハルホテルにも立ち寄り、買い物をしたりレストランで美味しい食事をいただいたりしました。ムンバイにあるホテルの中でも最もゴージャスなホテルで、いつかはこのホテルに宿泊したいと思ったものです。

6 月と今回はバンコク経由でインドに向かいました。バンコク国際空港は新しく、成田空港よりも大きく広い空港でした。テレビの画面を見ていると、あの広いスペースにあの人数。相当な規模のデモだと予想できます。あと 1、2 週間ずれていたら私も帰国できなかったかもしれません。

どちらも記憶に新しい場所での出来事に、とてもひとごととは思えません。

一日も早く平和が戻ることを祈る思いです。

(伊藤 玲子)

理事長の戯言（たわごと）

【Mr.スレブリッチ】

街にクリスマスソングが流れるこの頃になると、決まって思い出す人がいます。クロアチアサッカー協会事務局長の Mr.スレブリッチ。イメージがオシムさんによく似ていました。

当時私は 2002 年日韓 W 杯組織委員会（JAWOC）の横浜支部で競技運営を担当していました。韓国の釜山で最終組み合わせ抽選が行なわれ、横浜で試合をする国が確定すると、それぞれ下見にやってきます。その視察団一行が横浜にいる間中付き添って説明をしたり、そのアレンジをしたりしていました。12/4、最初にやってきたのがロシア。翌日にエクアドル。その翌日にやってきたのが彼でした。冷たい雨が降る中、横浜国際総合競技場のピッチを入念に確かめていました。その時はそれで横浜を後にしたのですが、後日入った情報では、国内を転々としてキャンプ地を探し、離日したのは暮れも押し詰まってからということでした。

翌年の 2 月末、参加国を対象としたワークショップが東京で開催され、終了後にまたしても彼は横浜を視察すると言い出しました。話の始まりは JAWOC 本部からの電話。「クロアチアが茨城を視察したあと横浜に行くので宜しく」。茨城支部と連絡を取り合い、一向は Mr.スレブリッチと通訳兼世話人（リエゾンといいます）のお二人で、ベイシェラトンまで茨城支部がクルマで送るのでそこでバトンタッチ、と決まりました。すぐに警備担当・宿泊輸送担当・スタジアムと連絡を取り、受け入れ準備万端。休日だというのにみんなに出勤を頼み、支部で昼前から待機していました。当初の予定では 13:00 ホテル着。しかし、東京に入るなり Mr.スレブリッチが「友人に会いに行く」で 2 時間のロス。その後歩行者天国の渋滞につかまり 1 時間のロス。この頃我々はベイシェラトンのロビーでじ～っとしながら、茨城支部から電話を待っていました。渋滞を抜けたら「お茶を飲む」でまた 2 時間のロス。この頃には私は他の皆さんにゴメンナサイをして引き取ってもらいました。結局なんやかんやで本人がホテルに着いたのは 20:00 過ぎ。一人で出迎えると、茨城支部の課長が「ホント申し訳ない！あとは宜しく。頑張って！」と言い、あっという間に逃げるように帰って行きました。ポカーンとしているとリエゾンの人が、「夕食を一緒にしよう、って誘われるよ」と耳元で囁きます。「でも、『家族が待っているから』と言えば間違いなくあきらめるから大丈夫」と入れ知恵してくれます。確かにそうでした。でも断った時に見せた、彼の寂しそうな表情が忘れられません。

翌日は朝からホテルの視察。ベイシェラトンからザ・ホテルヨコハマへ。ホテルの裏口から入場するため導線チェックで先回り。従業員の皆さんも揃って出迎え準備完了。するとリエゾンから電話。「近くまで来たら『お茶を飲む』と言うので 1 時間待ってほしい」。1 時間後にリエゾン。「あと 1 時間くらいかかりそう」。昼少し前にようやく登場。視察はほんの 30 分で昼食抜きで横浜国際総合競技場へ。当日はマリノス戦が行なわれており、試合観戦と施設の見学をセットで用意しました。クロアチアのサッカー界ではかなりの要人にもかかわらず、貴賓席を用意することができず、一般席で狭く寒い思いをさせたことを申し訳なく思います。彼はそんなことは一切気にせず、ハーフタイムに一人でフライドチキンを買ってきて「寒いからこれを食べて暖まれ」と私たちに差し出すのです。この出来事で彼に対する見方が変わります。「傍若無人の駄々っ子」だけではなく、「義理堅く人情の厚い江戸っ子」の顔も追加されます。その後練習会場や他のホテルを視察して、本日の宿泊予定の新高輪プリンスホテルに到着。この時点ですでに 21:00。それでも案の定「一緒に食事しよう」と誘われ、その後のやり取りでやっぱり寂しそうな顔をされ・・・。

結局 3 月上旬まで各地を転々としたのちに帰国しました。

数年後、クロアチア代表がキャンプをした新潟県の十日町市を訪ねました。その地に建立された記念碑に彼の名前を見つけたとき、思わず手で撫でてしまいました。

そして最近、彼に関する記事を見つけました。「オシムの言葉」の著者で知られる木村元彦氏があるコラムに掲載した内容。木村さんは今年 5 月に欧州選手権に臨むクロアチア代表チームの合宿地を追いかけて取材に行ったらしいのですが、木村さんはクロアチアがあまり好きではなかったといいます。木村さんは当時のクロアチアの政治をあまり感心してはおらず、「クロアチア人は冷淡」というイメージを持っていたそうです。しかし、今回の取材を通じて、木村さんは「私の頑な意識がひっくり返った」と言っていま

す。取材をしていると、Mr.スレブリッチは日本人記者を見つけると必ず声をかけてくれました。また、記者会見に臨もうというのであれば、こっちに来い、前に座れよと促され、司会をしながら地元記者に「遠路来られた日本の友人だ」と紹介してくれたそうです。最初、木村さん本人もどうしてこんなに良くしてくれるのかわからなかったということですが、Mr.スレブリッチが話した理由を聞いて嬉しくなります。2002 年日韓 W 杯のときにクロアチア代表チームが十日町市でキャンプを張ったときに非常によくしてもらったから。国外なのに何のストレスも感じず、選手たちも試合が終わり、十日町に戻ると「ここは落ち着く。まるで我が家に帰ってきたようだ」と語り合っていたといいます。そして、そのもてなしは素晴らしく、以後、彼は日本のお客さんにはお返しをしようと思っているのだそうです。

クリスマスソングを聴くと、彼の寂しそうな顔を思い出します。後悔もいっぱいあります。でも、彼が日本を良く思ってくれていることで少し安心しました。（内田 佳彦）